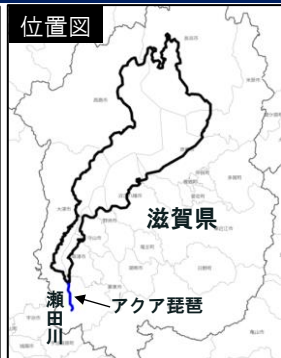


▶ TANAKAMI子ども環境クラブは大津市南部の田上学区を中心に水環境調査や自然体験活動を行っています。
 今回9月1日の『防災の日』に合わせて、国土交通省琵琶湖河川事務所職員がその児童やボランティアの学生に対して、琵琶湖における治水・利水・環境、水防災等に関する講義を行いました。

- 日 時：令和元年9月1日（日）13:00～14:30
- 場 所：「水のめぐみ館」アクア琵琶 映像ホール
- 参加者：TANAKAMI 子ども環境クラブ（児童21名+保護者8名）、ボランティア大学生7名 合計36名



講師

琵琶湖河川事務所職員
 《調査課》
 上野 調査課長



【講義内容】

- (1) 国土交通省の役割について
- (2) 琵琶湖ってどんな湖？
- (3) 琵琶湖・淀川水系の治水・利水・環境・水防災の概要
- (4) 琵琶湖の歴史「行基（奈良時代）から現代まで」
- (5) 瀬田川洗堰の役割について
- (6) 九州北部豪雨の内水氾濫について

【講義風景】



受講者からの感想

- 滋賀県は湖と河川によって産業が支えられていることがよくわかりました。中でも土木事業は、行基のいた時代から行われている歴史ある事業であり、人々の生活と密接に関わっているということを実感しました。また湖や河川はいいところだけでなく、危険をはらんでいるということも学ぶことができました。河川の氾濫や濁水等が住民の生活を脅かすということを常に意識して生活したいと思います。
- 自分たちの身の回りで欠かせない橋や河川などは、行基や空海といった歴史の事業で習うような人たちの苦労や努力が大きく影響していることに気づかされました。土木の仕事に対してキツそうなイメージを抱いていましたが、人々の生活を豊かにし、何十年もその土地や地図に残り続けるということに魅力を感じました。
- 瀬田川洗堰の役割を知れてよかった。昔は水があふれたり水がなくなったりして大変だったんだと思いました。

